

北海道教育大学札幌分校附属学校等移転顕彰誌

horizont

開学以来の“純剛の精神”

新しい時代に即して

新しい地平線が見えてくる

梶浦善次



◀ 西校舎前庭



▶ グラウンドから見た附属中学

本校舎 ▼



なつかしき学舎

北海道教育大学札幌分校
附属学校等移転顕彰誌
『躰』より転載



▲正面からみた本校舎



▲東校舎

北教大札幌分校

柴藻寮

▶へき地教育研究所



▼柴藻寮



柴藻寮▼

▶電車通りから正門を見る





◀ 白樺林と本校舎



▲ 正門にある守衛室



◀ 西校舎



◀ 北師会館

▼藤房のゆるる校舎

附 小学校
属 中学校
ふじのめ
学級



▲正門前から見た小学校

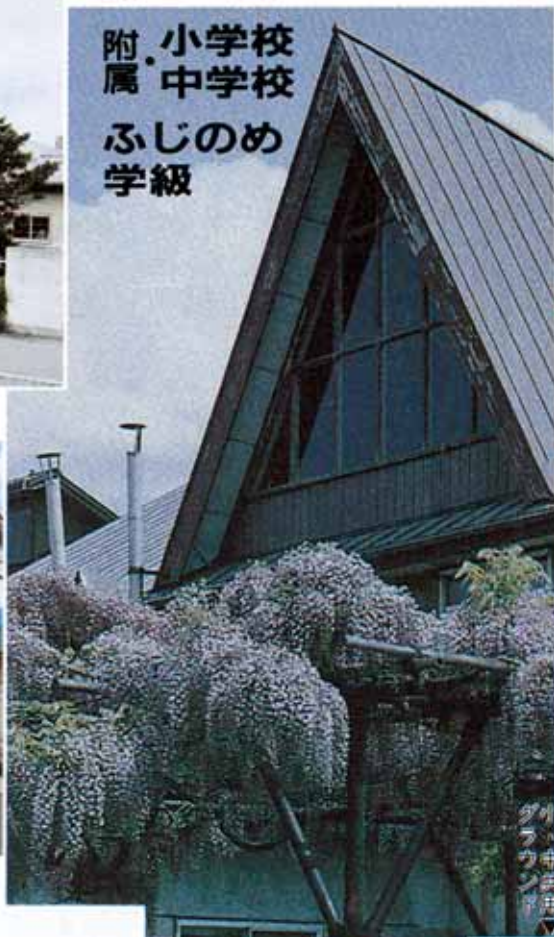


▲事務室

▼玄関



▲ふじのめ学級
▼正門前からみた中学校



◀札幌附属小中学校正面

旧北海道札幌師範学校武道場を訪ねて

北海道開拓の村（札幌市厚別区小野幌 50 番地）には、同武道場が平成 8 年に復元されています。平成 9 年 純剛 会報第 16 号でも特集されていますが、その外観や内部、展示内容をいくつかご紹介させていただきます。ぜひ実物もお訪ねください。



昭和 4 年（1929）年建築
昭和 24 年からは、一時、図書館に
その後、第二体育館として利用



建築当時 背景は藻岩山…昭和 9 年卒業アルバムより

■ 展示物




藻岩校舎完成を報じる新聞記事

昭和四年十月二十三日 北海タイムス

藻岩校舎の誕生

昭和4年(1929)、北海道札幌師範学校は新しい校舎や武道場が竣工した南22条西12丁目に移転した。鉄筋コンクリート製の新校舎は「藻岩ビルディング」と呼ばれ、藻岩山麓の畑の中に建っていた。ちょうど日本の経済不況が深刻化する時期だったが、給金をえて勉学できたことから、師範学校の入学志願者は激増し、たいへんな狭き門となった。

日本軍が満州事変を起こす昭和6年ごろ、札幌師範では皇城道場が行われるようになり、愛郷心を育成するための郷土室も完成した。




札師校のモダン校舎成る
 鐵筋コンクリートの二階建て
 廿九日から新校舎で授業

講堂の壁は全部キルク張り
 新築費は来春五月

古蹟

剣道部・柔道部の活動

両部は、武道場を主な舞台とし、放課後の種古・豊期の合宿・厳冬の暮稽古等で鍛錬に励んだ。そして、師範学校は中学校程度として扱われていたため、各種の中等学校武道大会に出場していた。全道大会ではたびたび上位を占め、全道大会にも出場している。

戦後、武道は禁止され、両部は廃止となった。活動が再開したのは学芸大学への移行後であり、柔道部は昭和28年(1953)、剣道部は昭和34年ごろであった。

師範学校と武道教育

本学は師範学校として、昭和4年(1929)に、北海道の武道場を主体として建設された。放課後の種古・豊期の合宿・厳冬の暮稽古等で鍛錬に励んだ。そして、師範学校は中学校程度として扱われていたため、各種の中等学校武道大会に出場していた。全道大会ではたびたび上位を占め、全道大会にも出場している。

戦後、武道は禁止され、両部は廃止となった。活動が再開したのは学芸大学への移行後であり、柔道部は昭和28年(1953)、剣道部は昭和34年ごろであった。



その他、師範学校教科書、運動会賞状などが展示されています。

